

て、独自で、早く診療所を開設すると。今交渉しておるといふ病院でもいいじゃないですか。診療所は届け出だけでいい。それが巖原地区の市民のお考えです。できないものはできないんだから仕方ないじゃないですか。もう一度、意気込みを聞かせてください。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私、記者発表をさせていただいた後に、透析を受けてある患者さんのお宅を訪問させていただいて、透析の実態等について再度お話を聞かせていただいたところであり

ます。
そういう中、巖原地区において、透析の数等の問題、それから、透析をした後の体調の問題、血圧の問題等々ずっと話を聞きました。どうかして、早い時期に今、診療所、無床なのか、有床なのかは別としまして、今交渉を進めております法人と方向性というのは出したいと思っておりますが、地域包括ケアシステムとの当然兼ね合いも、両輪並みにはしていかないといけない問題だと思っております。決して、その地域包括ケアありきじゃないと、それが有床診療でもできないという話でもないというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 時間が来ましたので、簡明にお願いします。13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） もう、5月17日には新しい病院がオープンするんです。空白をつくらないように、ケアシステムとは切り離して、やろうと思えばすぐできるんですから、診療所ですから。できん時は市があるじゃないですか、公でも考えられる。まず、やるかやらないかをはっきりと市民に示すべきだと思います。

冒頭申しましたように、西川農水大臣じゃございませんけども、「話をしても、わからない人はわからないんだ」ということがないようにお願いいたします。

以上。

○議長（堀江 政武君） これで、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は11時10分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時08分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

報告します。瀧上清君より早退の申し出があっております。

2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 会派つしまの小島徳重でございます。

通告に従い、2項目6点お尋ねします。

1 項目め、人口減少対策についてお尋ねします。

全国で急速に人口減少が進み、その対策は今や国家的課題となっています。

私たちの対馬は、1960年の6万9,556人をピークに、半世紀余りの間に半分以下の3万1,000人台まで減少し、日本創成会議のレポートによれば、2040年には1万4,076人になると推計されています。残念ながら、対馬市は全国の動静を半世紀前に先取りして、人口減少の急な坂道を下り続けており、2万人台の数字に近づこうとしています。

どうすれば、人口減少にブレーキをかけ、対馬創生が果たせるか、対馬市の人口減少対策についてお尋ねし、また幾つか提言もしてみたいと思います。

1点目は、対馬の人口減少の大きな要因となっている若者の島外流出対策について伺います。いかに島内に引きとめ、一旦、島外に出た若者が島内に帰ってくる、いわゆる引き戻すか、これが大きな課題であろうと思います。

27年度予算で、「漁業あととり育成事業」、「対馬しいたけ後継者育成支援事業」等、対馬の基幹産業である水産・農林業関係の後継者育成、雇用拡大の事業が7つほど組み立てられており、その成果に期待しているところです。しかし、対馬の雇用関係、若者の定住に目を向けると、第1次産業以外でも、特に、建設業、福祉・介護、小売業では、若年労働者の不足が続いています。

対馬に定住する若者を増やすため、対馬に就職した若者には、U・Iターンを問わず、産業・職種を問わず、就労祝金を贈呈するとともに、一定の年数以上定着した方には、奨励金等を贈呈する事業を組み立てたらいかがでしょうか。

2点目として、Uターン・Iターン者への支援策についてお尋ねします。U・Iターン者を呼び込むためには、仕事と住まいの確保が第一になります。U・Iターン希望者に対する面接に係る交通費、引っ越し費用の支援制度を設ける考えはないか伺います。

また、空き家バンク制度をもっと充実させ、U・Iターン者の定住に力を入れるべきであると考えます。対馬の空き家は1,400戸余りあると聞いておりますが、現時点で空き家バンクに登録されているのはわずか1軒とのことです。空き家バンク制度を広く島内外に周知し、U・Iターン者が居住する場合は、補修費や家賃を補助する施策が必要だと考えますがいかがでしょうか。

3点目として、結婚支援について伺います。対馬市の人口減少の大きな要因として、若者の島外流出に歯どめがかからないことと、島内に残った若者に未婚者が多く、出生数の減少が上げられます。

未婚者が男性でおよそ2,000名、女性で1,000名前後いらっしゃいます。大半の方は、強い結婚願望をお持ちです。しかし、婚姻数はここ数年100組ちょっとで推移し、出生者数も本籍人届出に限定すれば200人を切ろうとしています。このままでは、推計以上のスピードで

人口減少の下り坂を転げ落ちていきそうです。

「地方創生」元年と言われる本年度から、対馬市でも結婚支援に官民挙げて取り組むべきであると考えます。対馬市も人口減少対策本部を立ち上げるとのことですが、結婚支援の担当部署も市の組織の中に位置づけるべきであると考えます。市長の見解を伺います。

4点目として、子育て支援について伺います。対馬市の出生率は2.18で全国の市町村の中で5番目になっています。子育てに奮闘中の若い世代を行政・地域社会が一体となって、未来の主人公である子供の数を増やしていく施策が必要であります。

昨日提案された補正予算の中で、子育て世帯には上乘せしたプレミアム付き商品券が出されるという朗報がありました。私は、このことを一般質問で取り上げるつもりでしたけれども、補正で取り上げていただきましたので、うれしい予算だなというふうに捉えております。

公的な支援として、多子世帯、いわゆる子供の多い世帯の保育所、幼稚園、認定こども園などの保育料の無料化・免除の拡大が求められています。対馬市では、保育所の保育料については、多子世帯の第1子の年齢制限を18歳まで引き上げて、国が示した標準的な保育料より軽減されており、多子世帯の子育て支援として喜ばれています。

対馬では、3人以上の子どもがいる家庭がかなりあります。今後は、保育所の保育料の軽減の取り組みをさらに拡充するとともに、幼稚園・こども園にも広げていく考えがあるかどうかお尋ねします。

次に、保育所等の職員の処遇改善について伺います。職場への定着及び質の高い人材の確保を図るため、厚生労働省で「保育士等処遇改善臨時特例事業」が実施されていますが、平成26年度対馬市ではどのような取り扱いになってるかお尋ねします。

次に、市長の政治姿勢・政治手法について伺います。

1点目、いづはら病院跡地問題について。

この問題については、先ほどの小宮議員さんをはじめ、多くの方々が質問されますので、私は次の1点のみお尋ねします。

1月7日発の県福祉保健部長からの回答文書を受けて、1月30日に議員全員協議会が開催されましたが、なぜ、臨時議会を開催しなかったのかお尋ねします。

2点目、ふるさと納税の拡充について、9月、12月議会の2回にわたり市長の見解を求めました。

対馬市もお返しに特産品等を贈る制度をやりましょうよということを提言したんですが、市長は「明らかに見解の相違がある」と答弁され、1月19日に総務大臣と会う機会があるから、改めてこの問題について、総務省の今までの見解というものを問いただしたいと発言されました。総務省の見解をお聞かせください。

以上、市長の簡潔で明瞭な御答弁をお願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小島議員の質問に答えさせていただきます。6点ありますので、順不同になるかもしれませんがお許しいただければと思います。

まずもって、人口減少対策の一環としての若者の島内への引き戻しといいますか、引きとめといいますか、そのあたりでの就職祝金、また雇用者への助成金制度というお話がございました。

これにつきましては、許される財政の範囲内におきまして「子ども夢づくり基金」等を活用しながら、既に26年度から、対馬高校の、対馬の3校ですね、3校の子どもたちが島内の企業に就職をする場合の就職の準備金といいますか、支度金といいますか、そういうものを創設をして、今年度から支出をするようにはしております。その金額の多寡は別としまして、許される範囲、財源が許す範囲で私どもも組み立てをしてるところであります。

また別に、農・林・水の3第1次産業と比べたときの、他産業の就職への問題というのがやはりあります。それらを考え、先ほどのようなことにも取り組み始めたところでもあります。金額の差は明らかにありますけども、取り組ませていただいております。

また、U・Iターンの方の引っ越し制度みたいな、支援制度みたいなのはというお話もございました。これについては、現時点では当然ながらございません。

それと関連する部分として、空き家の話がございました。空き家につきましては千四百数十軒の空き家があることは、二、三年前の調査で把握はしております。空き家バンクにつきましては、もう既にその前から、ずっと前から空き家バンクをつくって、そして空き家バンクへの登録ということ、所有者の方にもお願いをずっと行政としてもしております。

ところが、やはり今、ここ対馬を離れてある方も、年に一度とか帰って来られる場合のことを考えられて、その空き家をちょっと貸すのはということできずとしぶられる部分が、ハードルが高いということになっております。

また、先祖のお位牌とかいうのもそこに置いてあったり、仏壇とかあるとか、いろんなことが、家財道具も置いてるとか、いろんな問題がそこにはありまして、私どもの自治体のみならず、空き家バンクの登録というのがなかなか進まない部分の大きな要因に、それがなってるというふうな以前から感じておるところであります。

結婚支援に関する制度というものも考えられないかというふうなお話もございました。

人口減少対策をどのように取り組んでいくのかということ、今、市としては、昨年の末から実はアンケート調査等々をやっております。そしてこの3月、4月にかけても転入・転出者のアンケート調査を実施する予定でございます。これらのデータをもとに、人口減の根本的な、どこに施策を本当に打ち込んでいけばよいのかということを見定めていく必要があるという思い

で、アンケートを、今、分析をしてる部分と調査をしてる部分がございます。それらを待って取り組んでいきたいと思っておりますが、専らそれにつきましては、対馬市の人口減少対策協議会というものを昨年の12月に設置をしております。その中で、協議会の中で一体となって、今の問題につきましても、結婚支援の問題につきましても、どのような取り組み方をしていくかということ、方向性を出していきたいというふうな考えを持っておるところであります。

保育料のお話がありました、拡充のお話。これについては、小島議員さんが御存じのように、平成18年でしたか、対馬市は第3子の問題として、1子、当然1子から3子までの間が年齢差があるわけですが、その年齢差、上の兄弟さんが18歳になるまでということで、私もその枠を拡充をさせていただいて、この3子の保育料の問題については取り組ませていただいております。

今、3子・多子の保育料のその制度っていうのが、今いろんな形で打ち出されておりますけども、まあ18まで見てもらえるのかどうかは、国の制度、県の制度、まだはっきりしてません。できればそこまで広げていただく中で、私どもの方向性と、さらに今、当然一般財源で単独費でやってるわけでございますので、そこを薄めていただきながら、それをまた子育て支援に回していけるんじゃないかというふうな期待も持っているところであります。

それから、まず4点については、そういうところよろしいでしょうか。

○議員（2番 小島 徳重君） まだ漏れてることがあったと聞きますけど。

○市長（財部 能成君） あっ、済いません。

5点目の対馬いづはら病院跡地利用の問題、県企業団との協議の進め方、議会の報告のあり方ということでございますが、これにつきましては、先ほどと重複するところがたくさんございますが、私どもは、病院企業団との当初のすみ分け。

○議員（2番 小島 徳重君） 臨時議会をなぜ開かなかったかと。

○市長（財部 能成君） 済いません。臨時議会の、全員協議会ではなくて臨時議会をなぜというお話がありました。これにつきましては、臨時議会の、私のこれはあれですが、臨時議会の議案として提出する議案がないと、臨時議会というのが招集ができない、私のほうからのということで、私のほうは臨時議会ということではなく、全員協議会ということ招集させていただいたというふうに理解をしていただければと思います。

それと、次のふるさと納税のお話がありました。これにつきましては、たびたびこの場でもお話をさせていただいておりますが、総務省のほう、たしか1月23日だったと思います、一つの方向性を出しておられます。

このふるさと納税と、ふるさと産品とのやりとりの問題について、やはり過熱しているということと、それと総務省のほう明確に出したのは、返礼品、品物ですね、返礼品を受け取った場

合の経済的利益については、一時所得扱いをこれからしていきますというふうなお話が逆に総務省のほうから出されております。

地方税法の改正が今、通常国会に出されてるはずですが、その地方税法が可決した後に、この返礼品・景品をふるさと納税に出してる問題についての、改めて自粛の通知というのを総務省としては出すというふうなことの見解も私どもには届いているところでございます。

○議員（2番 小島 徳重君） 1月19日に会われると言われたから、その話を。

○市長（財部 能成君） 濟いません。1月19日、高市総務大臣にもエネルギーの問題で、1時間半の会議の中で、最後のくぐりでこのふるさと納税という問題について、一つの、地方6団体も総務省に申し入れをしている問題でもございましたので、ふるさと納税の問題についてもきちんとした方向をとというお話を立ち話で会議の後にさせていただいたところでありまして。それについての返答は、明確なお答えはありませんでした。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） まず、1点目の若者の島内引きとめと、それから引き戻しについてのことなんですけども。

まず、ことしの高校卒業者、3月1日に卒業式はあったんですが、この卒業生たちの就職者の進路先を見てみますと、こういうデータがあります。就職希望者が78名です。そのうち、島内に就職される方は25名です。残りの方は島外に出てるわけですね。

それで、この島外に出てる方は、職がないから出てるというんじゃなくて、職は職安のほうで開拓していただいて、今年度は六十数件の求人職安のほうで開拓をしてくださっておるんですね。それでも、なおかつやっぱり島外に出ると。その大きな理由は何かということ、高校やあるいは職安の関係者の方に尋ねますと、一つは都会に出てみたいという若者特有のそういうことでもあります、心情もあります。しかし、やはり給与面で、島外のほうが、都市部のほうが、2万から3万ぐらい高いという現実があるわけですね。だから出ていくという、そういうような現実があります。

そして、その出ていかれる方の中に、対馬で不足している、例えば、福祉・介護等の職場、若い人を求めているんだけど、この就職してる島外へ出る人たちの中には、同じような介護関係・福祉関係の仕事に出てる人もいます。だから、こういう方々が島内で就職すれば若者が定着することになるし、特に、福祉・介護等は女性の方が結構多いわけですから、いわゆる結婚難ということにも、解消にもつながっていくわけです。

だから、私が質問の中で取り上げたのは、第1次産業については、行政でいわゆる後継者育成とかの手だてがなされてるけども、ほかの職種、小売業もやっぱり人手不足なんですね、特に若手の。だから、こういうところ、産業・職種問わず、やはり若者が対馬に残るようにするために

は、その給与差が少しでも埋まるように、いわゆる就職祝金的なものを贈ればどうかと、こういう投げかけしたわけです。そしてまた、定着する、まあ3年なり定着すれば、そういう職場にでもあるいは本人でもいいですけども、奨励金的なものは出せないかという投げかけをしたんですが、そのことについては確認したいと思いますが、市長、そういう考えはないでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど申しましたように、対馬市に設けます人口減少対策協議会の中の議題として、今おっしゃられるようなことは当然上がってくるんだらうなと思います。

ただし、先ほどから言いますように、アンケートとかさまざまなデータを解析する中で、どこにどのようなのがほんとで最も効果的なことなのかということを見定めていく必要があるかと思っております。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） まあ、そういう今アンケート調査をなさっているということですから、ぜひそのあたりを分析していただいて、そういう給与格差、そして対馬に残った人にはそれなりのいわゆる金銭的なといいますか、差額を埋めるような手だてを行政で考えていただければと思っておりますので、ぜひ御検討をいただきたいと思っております。

それから次、2番目の問題としては、U・Iターン者へのいわゆる補助制度です。

このことについては、職安さんにいただいたデータの中にこういうデータがありました。対馬へU・Iターンされる方の大半が帰る前に情報は持っていると、対馬のことについて。しかし、対馬に引っ越してきてから、いわゆる本格的に求職探しをする方が多いというわけです。その結果、どうなるかということです。その結果、職安で扱われたU・Iターンの数が94名です。そのうち対馬に就職された方は57名です。また、再度島外に出て行かれた方が13名、それから、なかなか職が見つからない方というのが24名です。4割ぐらいは職が見つからないか、あるいは島外に再度また出て行くかという、こういうことになっています。

だから、もし対馬に職場に面接に来られると、そういうときに旅費の補助をしてやったり、あるいは家族ぐるみで引っ越して帰ってくるときには、引っ越しの費用を公的な何か方策で手だてをしてやれば、職を探してから帰ってくる。帰ってきてからも安心して住めると。そういうふうなことになるんじゃないかと思いますが、このことについて市長どうでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私、そのこととは別に、対馬の人口の社会減がどこで起こってるかということ、ずっと表で以前から見たことあるんですが、18、19で落ち込むのはもう以前から一緒です。で、それ以外で落ち込んでるのが35から50までの間でまた落ち込んでます。さらに70以上でまた落ち込みます、社会減です。この高校卒業時点の社会減はともかくとして、そ

の年代の社会減は何なのかということずっと考えてみました。それは私も通った道なんですけども、やはり子供の教育の教育費との兼ね合いとかいろんなことが、そのときに重荷になってくる問題がいっぱいあるんじゃないかとも私自身は感じております。

そのあたりが社会減、ほかの島と違う傾向が出ております。どうかしてそのあたりを食いとめること。外から入って来てもらう分を何も拒むものではありません。しかし今、中にいる人たちが出て行かないような方策をどうしていくかということも大きな問題だというふうに思いますし、今の私が言いました30代から50の間の社会減の中にも、今、小島議員がおっしゃられた部分も社会減として当然含まれてるとは理解しておりますが、それ以外の島内の在住者の社会減というのを私どももしっかり考えていきたいと。今回の協議会の中での大きなテーマだというふうには思っています。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） はい。そういうことについての、いわゆる減少対策協議会なるものを立ち上げられたということですから、ぜひそれを、今市長おっしゃられたようなことを実際に具現化といいますか、政策化できるような一つとして私は今こういうことを申し上げたわけですから、今後のそういう中で考えてください。

それから、いわゆる今度は住まいの確保のほう、空き家の問題。これは、市長るる説明されたように、それぞれ家庭の事情があつたりとかあつて、空き家にしてるけれども貸せないというようなあると思います。しかしそれは、やはりもう少し空き家の実態をつかめば、幾らでも空き家として貸したほうが家も傷まないし、いろんな収入面でもという家庭はあると思うんです。そして、その中のその空き家等どういうふうにしたらいけないと思うんですが、学校、閉校後の校舎跡、それから公的な機関で使えるところがあつたら、そういうところをやはり、Uターンは、それでもIターンのほうがですが、活用が高いと思うんですが、使えるようなそういうこともぜひ考えていただいて、島外からやっぱり特にIターンの人たちにとって、対馬に住まいの確保という点では、それを準備することが定住人口の拡大につながるというふうに思っています。

それで最近、いわゆるリタイアした人間、私たちの世代ぐらいの世代は、対馬を郷土として、そして島外でもう悠々自適な生活を送ってる人は、対馬に長期間里帰りする人たちも結構います。私の知ってる人でも1カ月ぐらいは対馬に滞在するという人がいます。そういう人の中には、もう実家は親もいない、兄弟もいないから実家には泊まれないけれども、どこか長期間滞在するにはいい場所がないだろうか、そういうようなところで、いわゆる宿に泊まるまではやはり金銭的には負担になるけれども、そういう方法もあります。

だから、最近言われてる2地域型の居住、それからお試し型の居住というのがそういうUターンやIターンの人にはよく言われています。

そして、今言ったように里帰りの長期滞在、そういう人たちのためにもぜひ廃校利用、閉校後の校舎利用とか公的な施設で使っていないところの活用を考えたらいかがかということで一応投げかけをしときたいと思います。

それから次、いわゆる結婚支援のことですけれども、このことにつきましては前にも一度取り上げたんですけれども、いわゆる人口減少の大きな数字的にすぐわかるのがいわゆる婚姻数と出生数、これを見てみたいと思います。これは、前も一回示しましたが、いわゆる出生者数がどのように落ちてくるかということはここに示してるつもりです。平成12年には410人の出生者数があったのが、去年は260まで落ちています。それから、子どもが減ってる数の大きな要因は、婚姻数がどのように減ってるかという、19年からのデータしか私持ちませんけれども、174から落ちていって、現在は大体120前後のところであります。

それで、ぜひいわゆる男性で2,000人、女性で1,000人の未婚者がおられるわけですから、この方々を、9割は大体結婚したい、ぜひしたいとおっしゃってるわけですから、それがなかなか対馬の中で機会がないということですから、市のほうでは結婚支援課、あるいはまあ、いわゆるほかの自治体では、お結び課とか縁結び課とか、いろんな名称つけて専任の担当を置いてるところもありますが、そういう結婚支援の部署をつくる考えはないか、お尋ね、確認をしたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長。財部能成君。

○市長（財部 能成君） 現在、この結婚のお話につきましては、対馬市が直接的な形ではなくて、社会福祉協議会に対しまして委託をさせていただいておるところであります。この四、五年全部で6組のカップルができ上がったというふうな報告は聞いておりますけれども、それが多いのか少ないのかは別としまして、本市がやるまでもなく、商工会の方々もこの問題について、昨年取り組んでいただいた経緯もございます。そして、私どものようなかた苦しいやり方ではなくて、彼らの柔軟な事業の展開によって、9割方の方たちのカップルがそのときでき上がったという報告も青年部長のほうから報告は上がっております。市が前面に立ってこのことをやったほうが、こういうのがいいのか、いずれのように社会の中に仲人をずっとやってくれるようなおば様が地域にはずっといらっしゃいました。そのあたりっていうのは、すごいノウハウが要るんじゃないかなというふうにも感じて、改めて私は感じておるところです。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 今、市長お話されたように、確かに社協に今、市はそのことを結婚支援については委託されているっていうか、お任せされています。ところが社協のほう、限られた職員で限られた予算で、たくさんの業務を担当の方抱えられて、このことには正直言って一生懸命担当は取り組んでありますけれども、私が聞いた限り見た限りでは不十分といいますか、まだ

足りないですよ。

やはり、もっと市が本腰になるならば、市の役所の組織の中に、やっぱり結婚、その支援課とかお結び課とかまでつけないにしても、担当者をやっぱりしっかり置いて、そしてさっき出た人口減少対策協議会、市の中の組織がつくられたということですから、その中でも中心的な課題として取り扱うべきだと思いますよ。で、市長おっしゃった役所が前面に立たなくていいんですよ。役所は後方支援でいいんです、役所の担当者は。それを仕組むのがやっぱり役所の力がないと、社協の今の現在の人的スタッフとそして予算から言ったら、これ以上のことは望めないと思います。現に、いわゆる出会いの会、その会が去年は5回開かれましたよ。しかし、ことは社協3回に落ちていますよ。それを補完するような意味で、商工会青年部が1回頑張ってください。

しかし、これは、対馬市の結婚事情からすると、そこでとまっていたらいけないと思うんですね。もっと、力を入れるべきだと思いますが、改めて市長の見解を伺いたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 実際、今、委託をしております社協、そして昨年、自主的に取り組んでいただきました商工会青年部の方たちの率直な意見といたしますか、やり方としてどのようなのが最もいいのかというような部分での、まず意見を細かく聞かしていただきながら組み立てていきたいと思えます。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ここに、社会福祉協議会の結婚相談所が調査をした調査報告があります。この中にこんな意見が出ています、読み上げてみますよ。「市では対応できず、民間に委託してしまうような取り組みならば、私は利用しない」という、これは社協で取り組まれたその取り組みに対してのそういう声が上がっています。一応これはそういうことです、申し上げときます。

それから、もう一つ提言なんです、今相談員の方は6名おられます、旧町ごとに。この6名の方々をもっとやっぱり増やしていただいて、せめて校区ごとぐらいに増やして、いわゆる集落支援員、内部支援員がおられますけど、そのぐらいの数ぐらいを配置をして、やっぱりせっかいて、迷惑と言われるような感じぐらいで取り組みをその相談員の方々がされて、そしたら今度は成り立てば迷惑だったというのがありがたに変わる。これは、私が今言ってるのは福井県がずっと出生率に日本一を続けている福井県での取り組みのお話です。西川知事が取り組まれたそういう施策があります。そういうこともぜひ参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをしときます。

それから次に、子育て支援については、先ほど質問の中で述べましたけども、対馬市は第1子

を18歳まで繰り上げて、そして多子家庭の多子世帯の支援をなさってるということは敬意を表しました、ですね。それをできれば、これは教育委員会の今管轄になってますけども、幼稚園のいわゆる保育料についても、今後ぜひそうしていただきたいと。今、幼稚園は子供の数に関係なく、1人幾らということで保育料をいただいているはずですが、これはこども園も誕生しますし、こども園・幼稚園についても今福祉関係で取り組んであるように、ぜひ子育て支援の充実ということで、ここで要望というかお願いをしときたいと思っています。

それから、子育て支援でもう一つ、これ最近私も耳に入ったんですけども、私立の保育所の保育士等の処遇改善臨時特例事業の実施についてということで、厚労省のほうの事業で行われているんですが、このことについて対馬市ではどのような取り扱いになっているかということをお尋ねしたんですが、このことはちょっと答弁になかったんですが、市長御存じなければ部長のほうからでも結構です、どうぞ。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 過去取り組んだ分のお話かと思います。現時点の取り組みについて私のほうにデータが入っておりませんので、担当部長のほうに答えさせます。

○議長（堀江 政武君） 福祉部長、仁位孝良君。

○福祉部長（仁位 孝良君） それでは、保育士等の臨時処遇改善事業の取り組みについて、私のほうから報告をさせていただきます。平成25年度に確かにこの事業は実施をいたしました。このときは補助率100%ということで、あくまで臨時的なものということで平成25年度は取り組みをしました。

また、これは、市内2つの私立保育園がございますが、そちらのほうの関係者も御理解の上で、25年度のみ事業ですよということでこのときはさせていただきました。

確かに、この処遇改善事業、その後事業としては続いてはおりますが、26年度からは、国も補助率を下げてまいりまして、当然、補助率が下がった分については市の持ち出しが出てまいります。そうしますと、市としましては、全体を見回しますと当然保育業務だけでなく、いろんな市には仕事がございます、職種がございます。そういった関係もありまして、本当にこの事業が効果的なものなのかどうかという関係もあり、あととしましては、財源的な財源を伴うものでもありますので、今後この事業については慎重に検討をしてみたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ちょっと部長、今の答弁、これ26年度はもうこの3月までしかないじゃないですか。それを今から検討するとかいうような話ではいかんじゃないですか。

25年度は確かに国が10割持ちましたね。26年度は、国が4分の3、県が8分の1、市が8分の1。つまり、残りの4分の1を県と市で持てばこの事業が実施できるのに、実施されてな

いわけでしょう。これ、私立の保育所、結構な人数の方が働いてありますけど、この制度があることわかってありますよ。そして、対馬市は取り組んでないということで、すごく落ち込んでありますよ。対馬市なぜやってくれないのかと。

市長、今の話を聞いてどう思われますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私も、過去に何かそういう事業があったなあというふうには記憶がなかったものですから、答弁はできなかったんですが、国の制度が4分の3ですか、（「うん」と呼ぶ者あり）の補助の中で、あと県・市が永遠にそれを見ていくという話なんですかね。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） これは臨時的なもので、昨年打たれて、ことしまた打たれたんですが、臨時的だからずっと続くんじゃないはずですよ。

それで、今年度は、対馬市8分の1というのは、私が試算してみたら六、七十万市が持ち出せば、この事業としては、全体としては、保育所の先生方に600万から800万ぐらいのお金が補助としておりてくるから、保育所の先生方一人一人にすれば給与によって違いますけど、10万から20万程度の給与のかさ上げができると書いてあります。

それで、これは国も力を入れてやってるわけですから、そういうことがちゃんと保育士の質の確保ということであらわされてるわけですから、もう少しこのことについては真剣に考えていただいて、残りの期間で補正が打てるなら補正でもやって、してくださいよ。そうしないと、子育ての質の確保ということではできないですよ。ちょっともう時間ないから、このことは一応また後で担当部のほうには詰めますけどね。やはりこれは財源で済むがどうだということでは済むことじゃないんで、確かに市の持ち出しやっても絶対やるべき事業ですよ。

それから最後に、市長の政治姿勢についてということですが、ちょっと確認をしたいと思えます。

これは、市長が高校の卒業式に贈られたメッセージです。市長、自分がこのことは原稿出されたんですから記憶があると思いますが、市長、この高校へのメッセージ出された原稿書かれたのはいつの時点ですか。おおよそでいいですよ、正確じゃなくても。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 卒業式の恐らく1カ月ぐらい前から物事の組み立てを始めたのではないかなというふうにはしか、私も何とも、いろんなことがいっぱいありますので。

○議員（2番 小島 徳重君） はい。わかりました。はい。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 1カ月前ということで、ぐらいだということですから安心しまし

た。私はこれは、とてもこのことを見せていただいて感銘を受けたんですよ。私自身すごく、卒業式から帰って読ませていただいて何回も見直してみました。ちょっと読んでみますよ。「自分が」、いいですか、「広い」、どっから読みましょうかね。（笑声）「自分の感情や価値観に注意を払い、広い視野を持って物事を見ると、自分が知っている真実は限られた一つしかないということには気がつきます。だからこそ、周りの人と話すこと相手の話を聞くことが必要です。心を広く持って自分の考え方に固執しないで、耳を澄ますことができれば、新しい可能性が見えてくるのではないのでしょうか」ということになってます。

それで、市長、私12月の議会するときにはふるさと納税について尋ねましたときには、見解の相違だということと言われましたけど、やはり、ふるさと納税一つとっても、市長のいわゆる心の底にある純粹さというのを私わかるんですよ。しかし、やはり今、世の中ふるさと納税は、一つの税を確保するだけじゃなくて、寄附をいただくだけじゃなくて、特産品を売り出すということで、知ってもらおうということで対馬をPRする、そして対馬ファンを増やす。

そういう意味では、市長、一つの考えに固執されなくて物事を広くとらえていただきたいということで、私は、このことは正月明けてから、市長が物事の考え方を換えられたんだなとそう受けとめています。

いづはら病院問題についても同じですね。先ほど小宮議員おっしゃったように、企業団への考え方と食い違ってるということを12月あるいは9月の議会で答弁されました。だから、その時点から、やはり物事の発想をここにおっしゃるように「幅広く、固執しないで」ということを取り上げて考えられれば、物事がもっとスムーズにいったんじゃないか、いくんじゃないかということをおし上げておきます。

市長、何か感想がありましたら述べてください。

○議長（堀江 政武君） 市長、簡明にお願いします、時間ですので。

○市長（財部 能成君） 私のような人生を歩まないように子どもにエールを送ったつもりでございます。

○議員（2番 小島 徳重君） は、何ですか。（発言する者あり）最後に。

○議長（堀江 政武君） 簡明にお願いします。2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 最後に、ぜひそのことを忘れないでいただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（堀江 政武君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。再開は午後1時からとします。